



# 京大広報

No. 524

1998. 5



〈文化交流〉 UBC付近のPacific Spirit Parkにおける学生実習（手前右がKimmins教授）—関連記事本文515ページ—

## 目次

### 〈大学の動き〉

部局長の交替等 .....508

### 〈部局の動き〉

大学院情報学研究科の設置 .....509

第6回成人病対策市民講座 .....510

大学院情報学研究科入学式 .....510

大学院アジア・アフリカ地域研究  
研究科入学式 .....511

〈日誌〉 .....511

〈訃報〉 .....512

### 〈紹介〉

大学院文学研究科・文学部 .....513

衛星電波観測で見る宇宙空間の泡沫（うたかた）  
—超高層電波研究センターの最新研究成果より— .....514

### 〈文化交流〉

「多国籍国家カナダでの生活と自然」  
安藤 信 .....515

### 〈洛書〉

地球温暖化と二酸化炭素 松井正和 .....518

### 〈資料〉

「国立大学施設の整備に関する緊急の訴え」  
に関する国立大学協会の要望書 .....519

平成10年度入学試験諸統計 .....520

### 〈公開講座〉

平成10年度工学部公開講座  
くらし・地球・工学 .....524

### 〈お知らせ〉

平成10年度創立記念行事音楽会の開催 .....525

### 〈話題〉

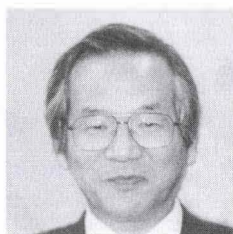
生態学研究センターに新造高速観測調査船  
「はす」進水 .....526

## 大学の動き

### 部局長の交替等

#### 副学長

古澤 巖大学院農学研究科教授（応用生物学専攻植物保護科学講座担当）が4月9日初代副学長に任命された。任期は平成12年3月31日までである。



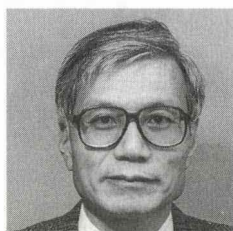
#### 副学長

三好郁朗総合人間学部教授（国際文化学科言語文化論講座担当）が4月9日初代副学長に任命された。任期は平成12年4月8日までである。



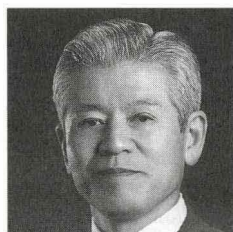
#### 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科長

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の新設に伴い、坪内良博大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授（東南アジア地域研究専攻地域変動論講座担当）が4月9日同研究科長に任命された。任期は平成12年4月8日までである。



#### 大学院情報学研究科長

大学院情報学研究科の新設に伴い、池田克夫大学院情報学研究科教授（知能情報学専攻知能情報ソフトウェア講座担当）が4月9日同研究科長に任命された。任期は平成12年4月8日までである。



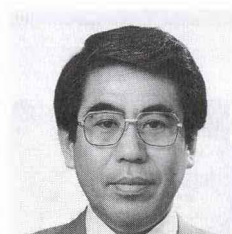
#### 再生医科学研究所長

再生医科学研究所の新設に伴い、山岡義生大学院医学研究科教授（外科系専攻器官外科学講座担当）が4月9日同研究所長に任命された。任期は平成12年4月8日までである。



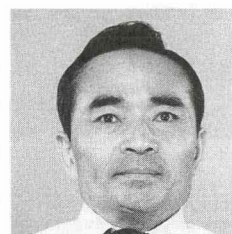
#### 大学院薬学研究科長・薬学部長

佐藤公道大学院薬学研究科長・薬学部長の任期満了に伴い、その後任として川崎敏祐大学院薬学研究科教授（生命薬科学専攻生体分子薬学講座担当）が5月1日大学院薬学研究科長・薬学部長に任命された。任期は平成12年4月30日までである。



#### 大学院エネルギー科学研究科長

新宮秀夫大学院エネルギー科学研究科長の任期満了に伴い、その後任として伊藤靖彦大学院エネルギー科学研究科教授（エネルギー基礎科学専攻エネルギー反応学講座担当）が5月11日大学院エネルギー科学研究科長に任命された。任期は平成12年5月10日までである。





## 部局の動き

## 大学院情報学研究科の設置

平成10年4月1日大学院情報学研究科が設置された。これに伴って、大学院工学研究科数理工学専攻、情報工学専攻、応用システム科学専攻および電子通信工学専攻は、在学生の課程修了を待って廃止される。

情報学研究科は、昭和61年に京都大学情報学部構想検討委員会を設置して行われた検討に端を発し、10余年を経て平成6年より検討が再開され、京都大学将来構想検討委員会により策定された、独立研究科計画に基づき設置されたものである。

21世紀は情報の世紀であると言われており、情報技術は現在最も急速に発展している技術である。これを社会に本当に適合するものとして、人類の幸福のためになるように発展させてゆくことは、21世紀を創造の世紀として人類が持続的に繁栄するための緊急課題である。

情報学研究科は、既に確立した領域がそれ自身高度化してゆく形で行われてきた大学院高度化とは異なり、異分野の相互作用と融合によって「情報学：Informatics」という新分野を生み出し、21世紀の情報文明の発展に貢献することを目的としている。

情報学研究科は、人間らしいしなやかな情報処理の実現を目指す知能情報学専攻、社会と情報化技術の調和を求める社会情報学専攻、複雑なシステムの

多様な挙動の解明とそのモデル化を目指す複雑系科学専攻、自然ならびに人工システムの数理構造の解明やアルゴリズムの開発を目指す数理工学専攻、情報とシステムのニューフロンティアを拓くシステム科学専攻、および情報化社会を支える基盤技術の確立を目指す通信情報システム専攻の6専攻より構成される。

情報学研究科では大講座制がとられており、その教育・研究組織と入学定員は表のとおりである。構成は、工学研究科、総合人間学部、文学研究科、理学研究科、農学研究科からの移行と振替等による18基幹講座（42分野）、連携5分野（うち研究科内措置3分野）、および客員1分野である。これに協力講座として、総合情報メディアセンター（分野数3）、防災研究所（同3）、医学部附属病院医療情報部（同1）、大型計算機センター（同1）、超高層電波研究センター（同4）が加わっている。本研究科の教員は、工学部、総合人間学部、文学部、理学部、農学部の各学部との協議により、学部を兼担して学部教育にも参加する。

以上のように、情報学研究科は、新しい構想に基づく21世紀に向けての京都大学発展の重要なステップを担っており、その立地場所は、第3キャンパス構想に沿って検討されているところである。

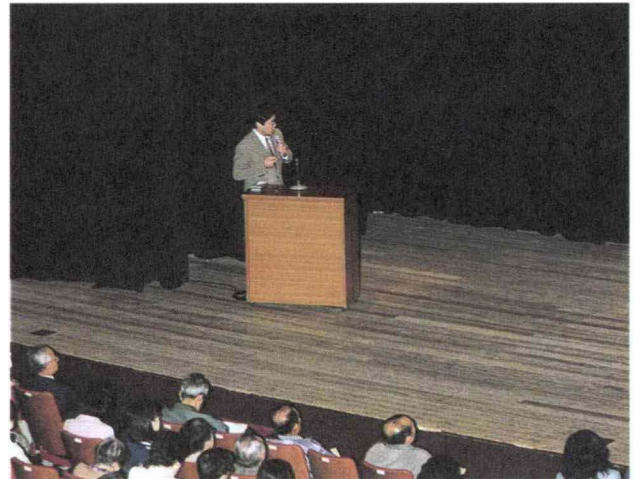
専攻名	講座名	入学定員	
		修士課程	博士後期課程
知能情報学専攻	生体・認知情報学 知能情報ソフトウェア 知能メディア メディア応用（協力講座）	28	13
社会情報学専攻	社会情報モデル 社会情報ネットワーク 生物圏情報学 地域・防災情報システム学（協力講座） 医療情報学（協力講座）	27	13
複雑系科学専攻	応用解析学 複雑系力学 複雑系構成論	24	10
数理工学専攻	応用数学 システム数理 数理物理学	21	9
システム科学専攻	人間機械共生系 システム構成論 システム情報論 応用情報学（協力講座）	30	13
通信情報システム専攻	コンピュータ工学 通信システム工学 集積システム工学 宇宙電波工学（協力講座） 地球電波工学（協力講座）	35	16
学 生 定 員 計		165	74

(大学院情報学研究科)

## 第6回成人病対策市民講座の開催

第6回成人病対策市民講座が4月4日（土）の午後に京都教育文化センター大ホールで開催された。本市民講座は、医学部附属病院第二内科（大学院医学研究科内科系専攻臨床病態医科学講座）主催のもと、第二内科の医師が京都市民を主な対象として成人病（生活習慣病）の予防と対策を分かりやすく解説するものである。毎年4月の第1土曜日に開催され、今回は京都市環境保健局の後援のもと第6回を迎えた。

本年度に取り上げられた内容は、高血圧・動脈硬化、糖尿病、肥満、腎臓病、心臓病、肝臓病、内分泌疾患、骨粗鬆症、リウマチ・膠原病、運動療法の10項目であった。それぞれの外来担当医師が、診察の際に患者からよく受ける質問に答える形式で、日常生活や食事など病気との付き合い方や予防法を15分間ずつ話した。講演に際して、臨床病態医科学講座中尾一和教授が中心となって作成したパンフレット「生活習慣病（成人病）予防指針」（京都市環境保健局保健衛生部健康増進課が平成10年3月に発行）を講演レジュメと共に配布した。講演途中の休



憩時間には、本学アメリカンフットボール部のトレーニングコーチによるストレッチ体操の実演指導があり、参加者全員がリラックスした。また、講演の後には、質疑応答および個別相談の時間を設けて、個々のケースに即したアドバイスを行った。

今回も、京都市民をはじめとして他府県からも300名以上の参加があった。

（大学院医学研究科・医学部附属病院）

## 大学院情報学研究科入学式

今年度設置された大学院情報学研究科の入学式が、4月16日（木）午前10時から、名誉教授をはじめ来賓出席のもとに、工学部大会議室において挙行された。

入学式は、学歌斉唱（京都大学グリークラブが協力）に続いて「総長のことば」があり、午前10時20分に終了した。

今年度の入学者数は次のとおりである。



専攻	修士課程入学者数			博士後期課程入学者数		
	入学者	外国人留学生	社会人	入学者	外国人留学生	社会人
知能情報学専攻	32	1		8	1	1
社会情報学専攻	29	4		5	1	
複雑系科学専攻	18			5		
数理工学専攻	18			3		
システム科学専攻	39	2		6	2	
通信情報システム専攻	53	5		5	1	2
計	189	12		32	5	3

（注）外国人留学生，社会人は入学者の内数

（大学院情報学研究科）



## 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科入学式

今年度設置された大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の入学式が、4月20日（月）午前10時から、来賓出席のもとに、東南アジア研究センター第1教室において挙行された。

入学式は、学歌斉唱（京都大学合唱団が協力）に続いて「総長のことば」があり、午前10時15分に終了した。

今年度の入学者数は次のとおりである。

専攻	博士課程	
	入学者数	外国人留学生
東南アジア地域研究専攻	10人	2人
アフリカ地域研究専攻	7	
計	17	2

（注）外国人留学生は入学者の内数



（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

## 日誌

1998年3月1日～3月31日

- |   |  |
|---|--|
| <p>3月4日 環境保全委員会</p> <p>5日 核燃料物質管理委員会</p> <p>9日 オーストリア共和国 国立グラーツ大学 Wolf RAUCH 学長来学，総長及び関係教官と懇談</p> <p>10日 評議会</p> <p>〃 教育課程委員会</p> <p>11日 国際交流委員会</p> <p>〃 国際交流会館委員会</p> <p>12日 大韓民国 延世大学校 柳 洲鉉 副総長 他3名来学，総長及び関係教官と懇談</p> <p>〃 中華人民共和国 北京師範大学 鄭 師 渠 副学長他3名来学，総長及び関係教官と懇談</p> <p>〃 環境保全委員会</p> <p>13日 入学者選抜学力試験（後期日程試験）<br/>（14日まで）</p> <p>17日 附属図書館商議会</p> | <p>18日 タイ王国 タマサート大学 Noranit SETABUTR 学長来学，総長特別補佐及び関係教官と懇談</p> <p>19日 サウジアラビア王国 H. E. Khalid bin Muhammad AL-ANGARI 高等教育大臣他11名来学，総長代理として国際交流委員会委員長及び関係教官と懇談</p> <p>〃 放射性同位元素等管理委員会</p> <p>23日 ドイツ連邦共和国 ボン大学 Reinhard SELTEN 教授来学，総長及び関係教官と懇談</p> <p>〃 アメリカ合衆国 アラスカ大学アンカレッジ校 Edward Lee GORSUCH 学長 他1名来学，総長及び関係教官と懇談</p> <p>〃 修士学位授与式</p> <p>〃 博士学位授与式</p> <p>24日 卒業式</p> <p>31日 評議会</p> |
|---|--|

## 訃報

## 下程 勇吉 名誉教授



本学名誉教授下程勇吉先生は、3月17日逝去された。享年93。

先生は、昭和5年京都帝国大学文学部哲学科を卒業後、大阪府立市岡中学校教諭、京都府立医科大学予科教授を経て、昭和22年に京都帝国大学文学部助教授になり、翌年同教授に昇任、教育学教授法講座を担当した。新制大学発足に当たり教育学部の創設に参画、昭和26年教育学部教授となり、昭和43年停年退官。名誉教授の称号を受けられた。この間、昭和26年4月から同29年3月まで教育学部長として、草創期における学部の教育と研究の整備充実に多大の貢献をされた。

本学退官後は、松蔭女子大学学長、大阪市教育委員会委員長などを歴任された。

先生は、教育の人間学的基礎を深く探求して独自の教育人間学の樹立を目指された。その成果は『フッセル』『天道と人道』『教育の場としての人間』をはじめ、多数の著書に収められており、特に、二宮尊徳、吉田松陰、中江藤樹に関する研究は日本の教育思想研究はもとより、広く日本精神史研究として大きな意義をもっている。

また先生は、関西教育学会会長、日本教育学会理事などを歴任され、我が国の教育研究の発展に指導的な役割を果たされた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院教育学研究科)

## 大隅健一郎 名誉教授



本学名誉教授大隅健一郎先生は、3月19日逝去された。享年93。

先生は、昭和3年京都帝国大学法学部を卒業、同法学部助手、助教授を経て同13年教授に就任され、商法を講ぜられた。同41年に最高裁判所判事就任のため退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

この間、昭和20年2月から2年間評議員として、また同29年9月から2年間法学部長として、本学の管理運営に多大の貢献をされた。

本学退官後は、昭和41年9月より最高裁判所判事の重責を担われ、卓越した学識と鋭い洞察力をもって多数の重要問題の解決に当たられ、判例法理の飛躍的發展に大きな足跡を残された。

先生は、商法的全領域、および独占禁止法や証券取引法等の商法の隣接領域について多数の著書論文を公にされたが、とりわけ力を注がれたのは、会社法の研究である。その研究は、歴史と比較法に関する深い造詣に基礎づけられているため、強い説得力を有し、学界および実務界に常に大きな影響を及ぼしてきた。

先生は教育にも情熱を傾けられ、現在わが国を代表する学者、法曹、企業経営者等を多数育成された。

これら一連の功績により、先生は昭和49年11月に勲一等瑞宝章を受けられ、同52年に日本学士院会員、同60年に文化功労者として顕彰を受け、平成5年に文化勲章を受賞された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院法学研究科)



## 紹介

## 大学院文学研究科・文学部

文学研究科・文学部はここ二年ばかりの間に大きな変化を経験した。ひとつは大学院重点化をはじめとする組織の再編であり、もうひとつは建物の改築である。

前者の結果として、日本哲学史やスラブ語学スラブ文学など、開設が長年望まれていた分野や、二十世紀学のような全く新しい分野が加わり、教育と研究はそれまでと比べてはるかに多様なものになった。また、大学院重点化の結果として特に強調しておかねばならないのは、従来から緊密な協力関係にあった人文科学研究科から多数の教官が協力講座担当者として参加することになった点である。これらの方々には、講義や演習はもちろん、博士論文の指導にも当たっていただいている。

一方、老朽化が憂慮されていた文学部の本館に代わって、8階建（一部5階建）の新館が昨年秋、旧本館の北側にすがたをあらわした。それより先、旧本館の西側に既に建てられていた2階建の教室とあわせて、文学部の改築はひとまず完成したことになる。新しい建物の特色は、すべての部屋に電算機の端末が設置されていることである。これによって時間を問わず情報を外部から取り入れたり、国内はもとより国外に向かっても情報を発信したりすることが可能になった。

このことにも現れているように、文学研究科・文学部の教育と研究についてとりわけ目につくのは著しい国際化である。文学研究科では外国文化の研究が大きな割合を占めているので外国人学者を招いたり留学生を送り出したりすることは以前から頻繁に行われており、また、広義の東洋学を専攻する研究者や学生を数多く迎え入れてもいたが、最近になってこういう傾向は一段と顕著になったと言える。たとえば、西洋古典学の教授としてスコットランドのセント・アンドルーズ大学に長年籍をおいていた著名な古典学者エリザベス・クレイク氏が着任したことが挙げられる。あるいは、再編の結果、国内国外それぞれふたつの客員部門が設けられることになり、後者については、欧米や中国の学者を相次いで招聘してきたが、近いうちにロンドン大学のアンドルー・ガーストル氏を招く予定になっている。ガー



ストル教授は浄瑠璃の研究者としてすぐれた業績をもつ人であって、このように日本文化の教育研究においても、昔なら考えられなかったかたちの交流が行われているのである。

文学研究科所属の教官自身ももちろん国際的な場で盛んに活動している。国際学会で研究発表をするのは以前からそれほど珍しくなかったが、近年は、外国の権威ある学術機関で講義や講演を行ったり、研究成果を外国で公刊したり、外国の文学作品のテキストを校訂してその国で出版したりするなど、文字通り外国人の研究者と対等の立場で仕事をしている例が数多く認められるようになってきている。往時のわが国の外国文化研究者は、外国で行われている研究を日本に紹介するだけで一人前と認められる嫌いがなくはなかったが、もはやそういう時代ではない。文学研究科の教官たちの仕事わが国の論壇や思想界に対してもっている影響力が以前より劣るという指摘も一部にはあるようだが、それは研究が単に日本だけでなく国際的な場を意識して行われており、国際的水準に照らして遜色のないものになっているという事実の半面なのだと言えるであろう。

但し、研究成果を一般社会に還元することも忘れられているわけではない。大学院重点化の実現を記念して、専攻を異にする教官たちによる公開シンポジウムが一昨年秋に開催されたが、これは幸い好評を得ることができた。シンポジウムはテーマを変えて昨年も行われたが、文学研究科ではたとえばこういうかたちで一般社会とのつながりを保って行きたいと考えている。

(大学院文学研究科・文学部)

## 衛星電波観測で見る宇宙空間の泡沫（うたかた） —超高層電波研究センターの最新研究成果より—

超高層電波研究センターは、宇宙・地球環境における電波科学の発展に寄与すべく、日夜努力している。MUレーダー（京大広報No 282 1984. 12. 1参照）、電波科学計算機実験装置（KDK）（京大広報No. 452 1993. 9. 15参照）などの設備を全国共同利用に供するほか、境界層レーダー、流星レーダーなど各種レーダー及びセンター・オブ・エクセレンス（COE）として整備されたマイクロ波エネルギー伝送実験装置（METLAB）なども共同研究に提供し各々成果をあげてきている。当センターではこれらの共同利用研究以外に、センターの研究者が中心となり、他の関連共同利用研究機関、全国の関連研究者と共同して展開する研究も行われている。紙面の関係ですべてを紹介することは不可能なので、今回は最後にあげた形態で成功を収めている研究の紹介をすることにしたい。

昔、人々は川面に浮かんで流れさり消えていく泡沫（うたかた）に自分の人生や恋の無常、はかなさを映した。一様な川の流れの中にあるその泡沫は、何世紀も隔てた現代の我々にとっても同じ様な感慨をもたらしてくれる。しかし、この泡沫が実は地球を取り囲む宇宙空間プラズマの大海にも存在することは、我々の科学衛星による観測と計算機実験を組み合わせた研究が行われるまで誰も知ることはなかった。

科学衛星GEOTAILは、文部省宇宙科学研究所が米国NASAと共同で1992年に打ち上げた人工衛星であり、地球磁気圏の夜側に存在する「磁気圏尾部」を観測することを目的としている。京都大学超高層電波研究センターでは、松本 紘教授を主任研究員（PI）として、このGEOTAIL衛星に全国の宇宙電波科学研究者と協力しプラズマ波動観測装置を搭載した。このGEOTAIL衛星に搭載されたプラズマ波動観測装置は、従来の波動の周波数スペクトルを観測する受信器の他に、波形を直接捕らえる波形捕捉受信器（WFC：Wave-Form Capture）を備えている。電波は、「振幅」、「周波数」、「位相」、「波数」という4つの属性をもっている。これら4つの属性のうち、従来の周波数スペクトル受信器は、「振幅」、

「周波数」、情報のみしか観測できなかったのに対し、GEOTAILのWFC受信器では、「振幅」、「周波数」、「位相」、という3つの属性まで観測できるようになった。そして、このWFC受信器が宇宙空間の泡沫を観測するのに成功したのである。

1976年にアメリカの衛星に搭載されたスペクトル受信器によって広帯域静電ノイズ（BEN：Broadband Electrostatic Noise）が発見された。この波動の特徴は、スペクトルが数Hzから数kHzにわたって広帯域に広がっていることにあり、この広帯域性を説明するために様々な議論が展開された。波動の名前に“ノイズ”と入っているのは、この広帯域性がランダムノイズのようなもので構成されているであろうという予測からである。このBENの波形を前述のGEOTAIL WFC受信器が世界で初めて観測することに成功した。図1がその観測波形の一例である。この波形を見てすぐわかるのは、この波動はノイズではないということである。むしろ、きれいなスパイク状の孤立したパルス波形の連続である。我々はこの波動を静電孤立波（ESW：Electrostatic Solitary Waves）と名付けた。この波形をスペクトル解析すれば広帯域な周波数スペクトルになることは明らかである（波形をみればこのような広帯域スペクトルを予想できるが、スペクトルのみの従来の受信器による観測からこの波形を予想する人はなかった。まさにコロンブスの卵的な発見であった）。

さて、この発見されたESWがどのように発生するのか。そのメカニズムを解析するために、我々のセンターの計算機実験チームが活躍した。その結果、電子ビームが高速でプラズマ媒質中を走り抜けた際に発生する静電波動が非線形発展すると、電子の密度が局所的に低くなるポテンシャル構造が安定に形成される（BGK：Bernstein-Greene-Kruskalポテンシャル）ことを示した。このBGKポテンシャルが衛星を高速で通過するとESWのような孤立した電界波形が観測される。図2に計算機実験によって得られた電界波形と電子の位相図を示す。図1と2を比較すれば、計算機実験が観測をうまく再現していることがわかる。ここに形成されているポテンシヤ



ル構造こそが、宇宙空間に浮かぶ「電子の泡沫」なのである。

計算機実験の結果から、この電子の泡沫は10,000km/s程度の高速で流れていると予測されている。川面の泡沫と違って人の目にはとまらぬ速さで、人生の無常をそこから感じる暇もないが、この泡沫の科学衛星による発見と計算機実験による発生メカニズムの解明は、この分野の研究に大きなインパクトを与えた。その証拠に、このGEOTAIL衛星によるESWの発見以後、波形によるプラズマ波動の観測の重要性が世界的に認識され、同様な波形をもつプラズマ波動が他の衛星により次々と観測され世界中の研究者から報告され始めた。そして、その観測領域の多様性から地球周辺の空間でこの泡沫はポピュラーな存在であり、その研究によって宇宙空

間の力学的性質の解明も可能であることもわかってきた。ESWの発見と発生メカニズムの解明、これは、まさに「観測と計算機実験の融合」を最大の特徴の一つとしている当センターでこそなした結果である。GEOTAIL衛星は今も宇宙プラズマの大海に浮かぶ泡沫を観測し続けている。川面に浮かぶ泡沫に比べ、この電子の泡は比較的寿命が長そうであるが、宇宙の歴史というスケールでみれば、やはりこの電子の泡も一瞬で消え去ってしまう泡沫である。その一瞬の泡沫をとらえる目（衛星観測）とそれを考える頭脳（計算機実験）のコンビネーションはこれからの宇宙プラズマの研究に大きく役立っていくことであろう。

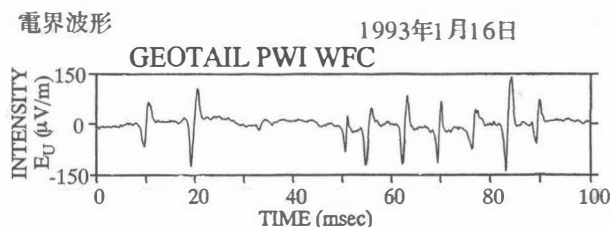


図1：GEOTAIL衛星が1993年1月16日に観測した静電孤立波（ESW）の電界波形。

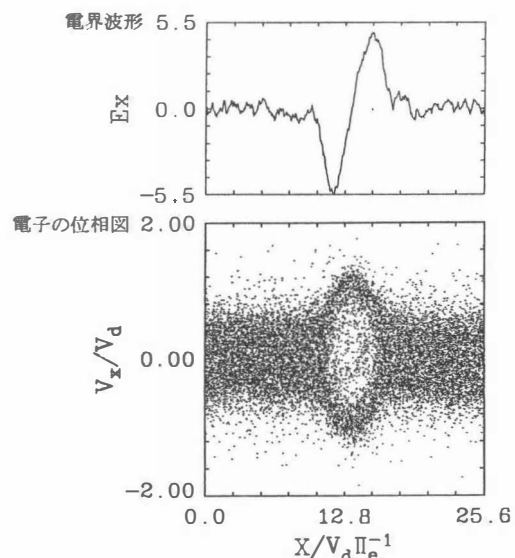


図2：計算機実験によって再現された静電孤立波の電界波形（上）と対応する電子の位相図（下）。電子が孤立したポテンシャル構造に捕捉されているのがわかる。

（超高層電波研究センター）

## 文化交流

### 「多国籍国家カナダでの生活と自然」

安藤 信

私は、1996年6月末から10カ月、カナダ、VancouverのUBC（British Columbia大学）に滞在し、ヘムロックの更新に関する研究に従事することができた。

長年、カナダ国有林のDr. Pageと連絡を取り、支所のひとつであるBC州の太平洋森林センターでの

滞在を希望していた。しかし、同国でも近年の国有林事業、とりわけ研究費の削減によりそれが難しくなり、彼の助言と、農学部岩坪五郎教授の薦めで、UBCの森林生態学研究室の教授であるDr. Kimminsのもとでお世話になることになった。

出発前にDr. Pageから何度となく連絡が入った。

そして、「カナダには様々な自然がある。代表的なものは、東部、中心部への旅行、もうひとつはRocky山脈への旅行で見ることが出来る。旅行が可能な時期は7、8月しかない。金があるならカナダ国有林を案内してやるからすぐに連絡せよ。」と言ってきた。そこで、北極圏へも行ってみたいという希望も入れて、東部、中心部の森林見学の計画をお願いした。早速、返事があり、まず自分があるOttawaの国有林本部、Quebec, Fredericton, Sault-St. Marieの各支所にそれぞれ2、3日滞在し、Torontoや、北のNewfoundland島、Inuvikを廻る7月18日から約1カ月の旅行日程が送られてきた。各地の主たる案内者は誰で、1日目は安藤はどこの森林と施設の見学、家族は観光、2日目は家族と一緒にどこの試験林へピクニック、そのためにどのホテルに予約せよ、といった綿密なものであった。彼と知り合ったのは1989年にカナダでIUFRO（国際林学会）が開かれた時である。彼は開催国のExcursionの総責任者で、自らが企画したひとつであるYukon-Alaska旅行に奥さんと参加した。旅行計画を練るのは得意中の得意ようである。いわれるままに宿を予約し、切符を手配したが、旅行社も知らない地名もあって戸惑った。この旅行では日本の森林と似た東部のブナ・カエデなどの落葉広葉樹林、北方林や森林限界の疎林などの自然、それにカナダの森林が抱える火災、動物、病虫害などの問題を現地で見ることができるとともに、多くの研究者と知り合いになれたことはたいへんな収穫であった。

一方、UBCのKimmins教授からは、私が到着する時期に丁度カナダ各地から国・州有林、大学の研究者が集まって、彼の研究室が押し進める「森林のデータベース化」に関わるワークショップが開かれる、ぜひ参加して欲しいとの連絡が入った。

6月28日（金）、Vancouverに到着した。空港にはカナダに永住している、先輩の兄さん夫婦が迎えてくれて、宿への案内、レンタカーの手配や、滞在中の家探しに奔走してくれた。週が明け、はじめてUBCに出勤した。研究会では教授は参加者達に雄弁に私を紹介するとともに、会議の合間をみて、私の研究計画を練ってくれた。彼は1) Vancouver島北部のレッドシーダ林の更新、2) 大学近くの自然



Gatineau自然公園（Quebec州）へのピクニック（Dr. Page夫妻と蔡先生と）

公園内でのヘムロック稚樹の更新、の2つの研究にかかわるように薦めてくれた。まず1) の森林を視察する手配をするとともに、なんでも細かいことは研究室のマネージャーであり、教授の片腕でもある中国人のMinさんに聞けと言ってくれた。次の週、フェリーと車で1日かかりで試験地に到着し、ここでは院生2人の案内で、森林伐採後、窒素不足のために再生がままならない更新地や、日本人が好んで輸入するイエローシーダ（日本のヒノキ）の試験地を見学した。道中、島の中心部で樹高が60mを超えるダグラスファーの森林や、西部では降水量が3,000mmを超える温帯多雨林（翌年、日本への帰路に行ったアメリカのOlympic国立公園では降水量が4,000mmを超え、ジャングルのようにコケむした典型的な森林を見た）、常緑のリョウブ（Arbutus）なども見ることができた。また、教授はRocky山脈（Alberta州を含む）など内陸部は10月以降氷点下になって、施設も閉鎖してしまうので早く行って来い、BC州の海岸部の針葉樹林を見るにはVancouver島北部から出るフェリーで海路を440km北上するPrince Rupertへの旅がすばらしいと薦めてくれた。それぞれ10月半ばと翌年の3月に出かけるが、海岸部から内陸部への自然の移り変わり、内陸の乾燥や寒冷な気候下での疎林や草原など、温暖多雨なVancouverや、東部や中心部と異なった自然を観察できるとともに、BC州の自然が他州と異なって複雑であること、カナダは国が大きいだけに自然がきわめて多様であることを再認識することができた。

研究室では、9月から新学期が始まった。教授は



国・州有林，企業から集めた研究費を皆に披露し，大学院の新入生たちを20名あまりの構成員に紹介し，それぞれの奨学金の交付や，リサーチ・ティーチングアシスタントとしての雇用，研究補助をするオーバードクターの雇用など，1年の研究計画，組織を発表した。私の名前もしっかりとあがっている。2つの与えられたテーマを2人の新入院生とすることになり，補佐をアメリカとドイツ人のオーバードクターがすることになる。研究室はスイス，中国，日系，ラテン系…とかなりの多国籍企業である。次の週，前述の自然公園内で学生実習が始まった。前年に実習をうけた新入院生がティーチングアシスタントとして班を持たされ，樹木実習や土壌調査をしなければならぬ。なかなか大変だ。実習中に教授は学生達に，この森林では安藤がヘムロック稚樹の更新の調査をするので，森林の構造や変遷がさらに明らかになるであろうなどと紹介する。滞在期間が短いから，まとまった仕事ができないかもしれないと言っておいたのに，なかなかのやり手である。教授は実習の終わり際，辺りを見回して，3mほどのヘムロックを2本，怪力で引き抜き，慌てて大きな袋に詰め込んだ。「公園内なので一般の人に見つかるとうるさい。これでしばらくは安藤の仕事ができたから，静かにしているだろう。」と言って，パジェロに積み込んだ。しかし，10月後半から12月半ばにかけては日本での報告書を仕上げねばならず，連日，大学へ出てUBC内のアジアセンターで日本の図鑑とにらめっことなり，教授との約束がなかなか果たせない毎日であった。この間も，教授もMinさんも顔を合わすと，昼飯を食べに行こう，うまいヌードルがある，あるいはクリスマス会，歓迎会，送別会だと会食やドーナツ，ピザパーティーに誘ってくれた。こちらでは夜の長時間の宴会をするのは日本人と中国人だけで，ほとんど昼間の1時間程度のあっさりした会であった。12月半ばから調査を再開した。今度はMinさんの協力で公園で100本以上のヘムロック稚樹を掘り取った。さすがに一般の人に見つかるとがめられたが，その時はMinさんがまくし立てて，弁解してくれた。しかし，いつも頼むわけにはいかないと，夕方，少し暗くなる頃に一人でも出かけていった。稚樹を，自宅で葉，幹，枝，根に分けて，大学の実験室で乾燥重量を計り，研究室で年輪を読むといった毎日となった。また，教授

に「調査林分の光環境を調べるために，4月に帰国後，再び太陽高度が高い時期にUBCに戻りたい。」と言うとすぐに招待状を書いてくれるとともに，Minさんは2,500ドル（20万円）ほどの照度計を買ってやろう，欲しければ日本に持って帰れば良いなどとたいへん親切であった。

Vancouverでは多くの国の人々に会うことができた。到着後仮住まいした民宿の奥さんは日本人であった。英字新聞で見つけた家はイタリア人の芸術家が10カ月ほど母国へ芸術活動のため帰国する間，住むことになったものである。その家の管理人である息子さんは日本人と結婚直前で，結婚式に出てくれるように頼まれた。両隣はフランス系とロシア系の人達で，Dr. Pageはイギリス人，奥さんはドイツ人，彼とともにOttawaの案内をしてくれた国有林の蔡先生は奥さんが日本人で，彼は東大大学院を出られた日本語がペラペラの台湾人で，家族ともどもカナダ到着後間もない時期にほっとしたものである。UBCのアジアセンターではとくに日本と中国の文化系の蔵書が多く，日本部門の責任者は滋賀県出身の権並さんという方であった。彼の紹介で同センターにはかなりの日本人が勤務し，この部門と林学関係に多くの日本人が留学していることも徐々に分かってきた。また，子供達の入学したハイスクールの関係から，同時期に私同様に日本から派遣された多くの研究者がいることも明らかになり，一緒にビールを作りに行ったり，たいへんお世話にもなった。カナダは，建国からの住民であるイギリス，フランス系民族の対立によるQuebec問題，先住民問題，近年の香港，台湾からの移民の急増など，いくつかの民族問題を抱えているという。しかし，日系人を含め，多くの民族がカナダの名のもとに一丸となる姿は，日本では想像できないものであった。ハイスクールの教育も，まず英語と仏語の二つの国語，そして歴史やキーボーディング（タイプ打ち）といった実学を重視し，余暇には釣りやハイキング，キャンピングカーでのドライブなど，自然と親しむことに多くの時間を費やす人々の生活は，日本での生活を考えさせられる貴重な体験であったといまさらながら思っている。

（あんど う まこと 大学院農学研究科附属演習  
林助教授）





## 資料

## 「国立大学施設の整備に関する緊急の訴え」に関する国立大学協会の要望書

このたび国立大学協会から国立大学施設の整備に関し、以下のとおり文部大臣に要望書を提出し、その趣旨に則り配慮方を要望した旨報告があった。

1998年3月31日  
国立大学協会

## 国立大学施設の整備に関する緊急の訴え

二十一世紀は学問と文化の世紀である。現在のわが国の混迷は国民が未来に対する期待を失った結果であり、その混迷からの脱却は学問と文化の振興の中でこそ果たされなければならない。科学技術創造立国とは科学技術と新しい学問・文化の創造によって未来に対する希望を沸き立たせ、国民に来るべき未来への希望の中で生きる意欲を鼓舞することに他ならない。その先頭に立つべき国立大学は全体としてこの数十年の間国際的に大きな力をつけてきた。研究者は各分野の国際的な学会において指導的な役割を果たし、世界的なグローバルスタンダードの実現に協力している。自然科学のみならず人文社会科学においてもわが国の研究者の水準は一流であり、国際的に大きな発言力を持つようになってきている。

しかし残念ながらわが国はまだまだグローバルスタンダードを自ら生み出す環境が十分に整っていない。二十一世紀には学問と技術は個々の国の範囲を越えて最先端の教育研究レベルを維持している機関に集中するであろう。そのときわが国が遅れをとることのないようにするためには、わが国の学術研究の基幹的な役割を担っている大学を中心とする研究施設におのずと各国の研究者たちが集まってくるような体制を整備しなければならない。そのためにはわが国の国立大学を中心とする現在の教育・研究環境はあまりに惨めである。

本年三月文部省の「今後の国立大学等施設の整備充実に関する調査研究協力者会議」は「国立大学等施設の整備充実に向けて—未来を拓くキャンパスの創造」と題する報告書をまとめた。この報告書は「大学改革の推進」、「科学技術創造立国の実現」、「社会の要請の変化」の諸課題を具体的に十五の視点にわたって提言し、国立大学等施設の改善を提案している。

試みに歴史の古い国立大学の一つの例を見よう。この大学は総合大学であるが、この大学が有する建物の面積の実に半分が老朽化しており、緊急の改修が必要になっている。壁面や天井の剥離、落下、漏水、配管の損傷など目に余る状態である。大学院教育が本格化し、院生や留学生が増加しているにも関わらず、施設が追いつかず、教育・研究環境は悪化している。建物は全体として「暗い」イメージで、到底二十一世紀に向けて学術・研究をするという夢は感じられない。留学生十万人計画の実現が危ぶまれているのもこのような大学の現状が大きな原因のひとつとなっている。

このような例は国立大学のどこにおいても見られる事態であり、緊急の対策が必要である。国立大学協会はこのような国立大学の現状がわが国の学術・文化の水準を極度に低下させかねない危険性を深く憂慮し、「調査研究協力者会議」の提案に感謝すると共にその提案に述べられているように、緊急に施設の整備を促進するための財政的措置を講ぜられるよう訴えたい。

## 平成10年度入学試験諸統計

## 1. 募集人員・志願者数・合格者数・入学者数等調

学部・日程		募集人員	志願者数	第1段階選 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
総合人間 学 部	前期文系	55 人	211 人	204 人	201 人	57 人	135 人
	前期理系	55	190	186	183	57	
	後 期	20	364	320	192	21	
文 学 部	前 期	190	655	654	646	193	224
	後 期	30	374	293	152	32	
教育学部	前 期	40	220	157	156	42	62
	後 期	20	161	138	98	20	
法 学 部	前 期	332	970	970	959	335	379
	後 期	38	574	483	192	44	
経済学部	前期一般	160	548	546	540	160	237
	前期論文	50	295	251	245	50	
	後 期	20	397	397	224	30	
理 学 部	前 期	294	963	932	925	296	326
	後 期	32	1,201	1,173	743	32	
医 学 部	前 期	90	493	409	400	91	102
	後 期	10	263	151	83	12	
薬 学 部	前 期	70	215	215	208	72	84
	後 期	10	136	136	91	12	
工 学 部	前 期	922	2,478	2,474	2,442	922	1,032
	後 期	108	1,306	1,303	673	113	
農 学 部	前 期	248	889	889	868	255	315
	後 期	62	902	902	558	62	
小 計	前 期	2,506	8,127	7,887	7,773	2,530	
	後 期	350	5,678	5,296	3,006	378	
合 計		2,856	13,805	13,183	10,779	2,908	2,896

(注) 合格者数には追加合格者を含む。

〔外国学校出身者のための選考の実施結果〕

学 部	募集人員	志願者数	第1次選考 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法 学 部	20人以内	64 人	44 人	32 人	17 人	17 人
経 済 学 部	10人以内	38	20	19	6	5



《工学部・農学部学科別内訳》

学部(学科)・日程		募集人員	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
工学部	前期	922人	2,478人	2,474人	2,442人	922人	1,032人
	後期	108	1,306	1,303	673	113	
地球工学科	前期	188	525	524		188	211
	後期	22	263	263		24	
建築学科	前期	85	247	246		85	95
	後期	10	130	130		12	
物理工学科	前期	232	578	578		232	261
	後期	28	329	329		29	
電気電子工学科	前期	126	330	330		126	140
	後期	14	176	176		14	
情報学科	前期	81	212	212		81	90
	後期	9	133	133		9	
工業化学科	前期	210	586	584		210	235
	後期	25	275	272		25	
農学部	前期	248	889	889	868	255	315
	後期	62	902	902	558	62	
生物生産科学科		104	(合格者数) 106 (前期85名 後期21名)				104
生物機能科学科		120	(合格者数) 123 (前期99名 後期24名)				123
生産環境科学科		86	(合格者数) 88 (前期71名 後期17名)				88

合格者 最高点・最低点(総点) 調

学部	日 程	満 点	総 点				
			最 高 点	最 低 点			
総合人間学部	前 期	(文 系)	800点	604.83点	504.91点		
		(理 系)	800	635.25	478.00		
	後 期		800	620.66	496.99		
文 学 部	前 期	700	523.75	436.83			
	後 期	700	519.50	470.00			
教 育 学 部	前 期	800	596.41	510.24			
	後 期	900	640.99	553.99			
法 学 部	前 期	750	579.75	462.25			
	後 期	500	420.50	372.25			
経 済 学 部	前 期	(一 般)	800	623.25	522.25		
		(論 文)	1,050	673.50	515.25		
	後 期		950	675.10	485.60		
理 子 <sup>学</sup> 部	前 期	650	524.00	361.00			
	後 期	400	311.00	234.00			
医 学 部	前 期	1,250	1,039.75	901.50			
	後 期	1,400	995.75	922.40			
薬 学 部	前 期	950	766.33	570.91			
	後 期	950	709.62	570.62			
工 学 部	前 期	1,000	889.00	595.91			
	後 期	1,100	846.75	704.00			
工学部	前 期 (総 点)			後 期 (総 点)			
	学科別	満 点	最 高 点	最 低 点	満 点	最 高 点	最 低 点
		1,000	889.00	607.50	782.75	704.00	
			824.33	634.58	827.75	713.00	
			842.33	632.33	839.50	719.75	
			873.91	621.16	829.25	714.00	
			849.91	646.16	846.75	715.25	
838.25			595.91	846.50	706.00		
農 学 部	前 期		1,050	809.41	617.16		
後 期	810	545.50	469.93				

- (備考) 1) 前期は3月9日、後期は3月23日の合格発表時のものである。  
 2) 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。  
 3) 合格者最低点について、同点者複数の場合には、学内選考規程により優先順位を付し合格者を決定する。したがって、同一得点であっても合否の異なる場合がある。

2. 志願者・入学者出身高校等所在都道府県別調

上段…志願者数  
下段…入学者数

都道府県	学 部											計	都道府県	学 部											計
	総合人間	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	総合人間			文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農			
北海道	19	20	2	28	15	48	4	6	38	25	205		三重	10	15	4	27	12	29	6	3	48	14	168	
東	青森	3	3		2	1	5		2	8	26	近	滋賀	5	32	12	33	21	26	5	12	93	36	275	
	岩手			1	3	2	6			3	20		京都	57	91	34	172	150	151	89	46	474	218	1,482	
	宮城	2	5	1	7	3	7	3	4	11	45		大阪	113	173	70	336	216	289	122	83	875	383	2,660	
	秋田		2		2	5	9	3			23		兵庫	61	83	31	185	139	191	130	24	412	165	1,421	
	山形	2	5	1	7	1	5	1		6	32		奈良	29	71	22	114	85	93	42	15	316	140	927	
北	福島	4	6	3	2	4	14	3		12	53	和歌山	6	14	10	31	11	30	15	4	53	30	204		
関	茨城	13	26	2	17	15	43		1	34	174	中	鳥取	5	3	2	13	1	11	2	1	18	6	62	
	栃木	2	7	4	3	4	7	6		11	50		島根	3	3	2	2	6	9	2	2	8	12	49	
	群馬	5	7	5	5	8	14	8		19	86		岡山	6	19	4	23	23	20	5	7	70	50	227	
	埼玉	10	12	7	15	14	70	17	7	43	223		広島	26	21	8	44	34	46	8	10	80	20	297	
	千葉	24	18	5	9	27	55	6	1	53	231		山口	8	6	1	6	11	29	3	3	36	14	117	
東	東京	84	83	19	88	113	217	60	25	130	915	国	徳島	6	2	2	2	7	15	3	3	17	3	60	
	神奈川	43	29	16	17	55	114	28	7	93	460		香川	13	23	7	41	13	12	10	4	41	20	184	
	新潟	3	5	4	7	1	21		2	11	61		愛媛	3	7	11	12	12	28	11	2	46	15	147	
中	富山	2	10		1	4	8	2	1	5	39	九	高知	6	5	5	5	3	5	6	1	15	15	66	
	石川	3	16	7	11	8	18	8	7	37	127		福岡	28	30	6	43	21	75	18	10	106	50	387	
	福井	7	16	7	19	16	27	3	5	30	149		佐賀	6	6	3	9	4	11	2	4	21	7	73	
	山梨	1	3	1	1	4	10	4	1	1	26		長崎	8	10	5	4	5	7		4	17	13	73	
	長野	10	16	4	7	8	41	9		45	150		熊本	4	12	5	3	12	12	5	1	15	10	79	
	岐阜	11	13	4	23	11	40	11	7	46	184		大分	2	3	1	4	3	6	3	2	9	4	37	
	静岡	15	23	2	18	12	68	17	3	79	270		宮崎	4	1		8	1	6	7	3	10	5	45	
	愛知	56	50	29	95	88	142	27	26	246	875		鹿児島	16	21	9	17	9	32	24		31	18	177	
		14	16	5	27	16	27	3	8	79	216		沖縄	8	2		1		7	3		5	6	32	
													検定	13		3	21	21	33	15	2	6	10	124	
											その他		1		1	1	2			2	1	8			
											合計	765	1,029	381	1,544	1,240	2,164	756	351	3,784	1,791	13,805			
												135	224	62	379	237	326	102	84	1,032	315	2,896			

〔備考〕 外国学校出身者のための選考を除く。

3. 志願者・入学者入学資格取得年別調

学 部	志 願 者						入 学 者					
	総 数	現 役 10. 3 卒	浪 人 9. 3 卒	8. 3 卒	7. 3 卒	6. 3 以前	総 数	現 役 10. 3 卒	浪 人 9. 3 卒	8. 3 卒	7. 3 卒	6. 3 以前
総合人間学	765	454	210	50	20	31	135	65	63	5		2
	検 13	検 6	検 1	検 3		検 3						
		59.3%	40.7%					48.1%	51.9%			
文学部	1,029	634	298	55	11	31	224	143	68	8	2	3
	他 1	他 1										
		61.6%	38.4%					63.8%	36.2%			
教育学部	381	228	118	26	2	7	62	35	24	2	1	
	検 3		検 2	検 1								
		59.8%	40.2%					56.5%	43.5%			
法学部	1,544	986	432	71	23	32	379	210	149	16	3	1
	検 21 他 1	検 7 他 1	検 3	検 3		検 8	検 3	検 2	検 1			
		63.9%	36.1%					55.4%	44.6%			
経済学部	1,240	611	435	100	35	59	237	114	97	19	3	4
	検 21 他 1	検 6	検 4	検 4 他 1		検 7	検 2		検 1	検 1		
		49.3%	50.7%					48.1%	51.9%			
理学部	2,164	1,143	563	207	68	183	326	205	100	13	4	4
	検 33 専 2 他 2	検 9	検 7	検 2 専 1 他 2	検 3	検 12 専 1	検 3		検 2			検 1
		52.8%	47.2%					62.9%	37.1%			
医学部	756	284	141	69	31	231	102	44	37	13	1	7
	検 15 専 1	検 5	検 1	検 2 専 1	検 4	検 3						
		37.6%	62.4%					43.1%	56.9%			
薬学部	351	207	90	13	19	22	84	47	29	7	1	
	検 2 専 1	専 1	検 1			検 1						
		59.0%	41.0%					56.0%	44.0%			
工学部	3,784	2,385	1,058	214	50	77	1,032	621	357	40	8	6
	検 6 他 2	検 1 他 2	検 3	検 1		検 1						
		63.0%	37.0%					60.2%	39.8%			
農学部	1,791	963	552	154	47	75	315	167	121	24	1	2
	検 10 他 1	検 3 他 1		検 1	検 2	検 4						
		53.8%	46.2%					53.0%	47.0%			
合 計	13,805	7,895	3,897	959	306	748	2,896	1,651	1,045	147	24	29
	検 124 専 4 他 8	検 37 専 1 他 5	検 22	検 17 専 2 他 3	検 9	検 39 専 1	検 8	検 2	検 4	検 1		検 1
		57.2%	42.8%					57.0%	43.0%			

〔外国学校出身者のための選考にかかる入学資格取得年別調〕

学 部	志 願 者						入 学 者					
	総 数	現 役 10. 3 卒	浪 人 9. 3 卒				総 数	現 役 10. 3 卒	浪 人 9. 3 卒			
法学部	64	57	7				17	14	3			
	他 64	他 57	他 7				他 17	他 14	他 3			
		89.1%	10.9%					82.4%	17.6%			
経済学部	38	38					5	5				
	他 38	他 38					他 5	他 5				
		100.0%						100.0%				

検…大学入学資格検定合格者 専…高等専門学校出身者 他…その他の入学資格取得者



## 公開講座

平成10年度工学部公開講座  
くらし・地球・工学

工学部では来る6月6日、13日の各土曜日に、広く一般市民を対象とする「京都大学工学部公開講座」を、下記のとおり開催します。

6月6日(土)

廃棄物の再資源化

武田 信生 教授

21世紀に向けた自動車とその環境対策

池上 詢 教授

6月13日(土)

太陽光から電気を作る - 太陽電池の魅力 -

松波 弘之 教授

エコトピア - 21世紀の持続的社會 -

内藤 正明 教授

時間：午後1時30分～4時30分

会場：京都市左京区吉田本町

京都大学工学部 物理系共同研究棟

(※自家用車での来場はご遠慮ください。)

定員：150名

受講料：4,400円

(テキスト代を含め、全講義を通しての受講料で消費税を含みます。)

申込方法：現金書留または受講料直接持参によりお申し込みください。

現金書留の場合は以下のものを同封して下さい。

1. 受講料
2. 住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記した用紙  
(1人につき1枚記入下さい。)
3. 返信用封筒

(表側に宛名、郵便番号を記し、80円切手を貼って下さい。受講証、領収証、会場案内図をお送りします。)

申込期間：5月11日(月)～6月4日(木)

持参の場合の受付期間：

(月)～(金) 午前10時～午後3時(午後0時～午後1時を除く)

テキストは当日会場受付でお渡しします。

本講座は「京の府民大学」対象講座です。

問い合わせ先及び申込先 〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学工学部等総務課庶務掛 公開講座係

(工学部8号館1階西側)

電話：075-753-5000・5005

FAX：075-753-5065

## お知らせ

## 平成10年度創立記念行事音楽会の開催

本学では、6月18日の創立記念日を祝い、下記のとおり音楽会を開催いたしますので、本学学生・教職員のご来聴を歓迎します。

名 称 ラグ・タイム&ガーシュイン  
 演奏者 池 宮 正 信 (ピアノ)  
 日 時 平成10年6月17日 (水) 開場：午後5時30分 開演：午後6時30分  
 終演：午後8時30分 (予定)

会 場 京都コンサートホール (京都市左京区下鴨半木町1-26)

## プログラム

## 《第一部》(約40分)

ブラームス : 間奏曲 作品117 No. 2  
 ゴッドシャルク : パスキナーデ  
 スコット ジョプリン : ジ・エンターティナー  
 アーント : ユーモレスク・ラグ  
 クレル : ミシシッピー・ラグ  
 クラウド ドビュッシー : 小さな黒人, 風変わりなラヴィン將軍  
 グリウォッグのケーキウオーク  
 ブレイク : シェビーチェイス  
 ウィリアム ボルコム : 優雅な幽霊のラグ  
 ヘビのキッス (幻想のラグ)

—休憩 (20分間)—

## 《第二部》(約40分)

ガーシュイン : 3つの前奏曲  
 ふたつの調の即興曲, リアルトのさざ波 (ラグ)  
 スワニー, 私の好きな人  
 アイ ゴット リズム, ラブソディ イン ブルーより

## 演奏者略歴

## 池 宮 正 信

1946年、中国旧奉天市生まれ、京都市洛星高校在学中に渡米、オーベリン音楽院ピアノ科を首席で卒業。インディアナ大学大学院で最優秀学生として修士号を取得。1980年よりメイン州のアーカディ音楽祭にて音楽監督をつとめ全米有数の音楽祭に育て上げ、毎年1万人以上の聴衆を集めている。今年の音楽祭は18年目にあたる。ピアニスト、チェンバリスト、室内楽奏者、指揮者、古楽器研究者、国際音楽コンクール審査員としての活動は、アメリカ、カナダ、中南米、ロシア、ヨーロッパ、日本各地に及び、全米ラジオ、テレビ、国連本部での演奏や各地のフェスティバルを通じて、アメリカ音楽、特にラグタイムのトップピアニストとして確固たる存在である。1989年レニングラード室内管弦楽団の招待を受け、指揮者、ピアノ奏者として旧ソ連のツアーを行い、その模様を全ソ連にテレビで放映紹介された。1991年7月、国連本部から“Musician Supreme” —最高の音楽家—として表彰された。1992年、ニューヨークで録音したCD「ラグタイム・クラシックス」はグラミー賞にノミネートされた。1993年秋、ニューヨーク・ラグタイム・オーケストラを結成。1994年にはBMGより「ニューヨーク ラグタイム オーケストラ」をリリース。

また、日本においても幅広く活躍しており、最近では金閣寺創建600年記念コンサート「音舞台」にニューヨークフィルの主要メンバーと共に出演した。

## 入場無料

備 考：学生証または職員証を持参してください。

プログラムは当日会場で配布します。定員は1,600名先着順とします。

演奏中は入場できません。

(学生部)

## 話題

## 生態学研究センターに新造高速観測調査船「はす」進水

琵琶湖を対象とする学術調査研究や学生実習に活用される調査船として、昨年10月から建造を進めていた「はす」が3月2日に進水し、活動を始めました。

この調査船「はす」は、耐腐食性アルミニウム合金製で全長12.5m、総トン数8.5トン、最大航行速度20ノット、定員20名でレーダー、ディファレンシカルGPS、ドップラー流向・流速計、ジャイロコンパ

ス、水温計、アーマードケーブルウインチ（船尾デリック）、ワイヤーウインチ（左舷ダビット）などを装備しています。

調査船「はす」は全国共同利用施設の一つであり、その活用が琵琶湖からの大きな成果につながることを期待しています。

（生態学研究センター）

